

自然の歴史やしくみを知ろう！

大阪市立自然史博物館

学芸課 石井 陽子



図1：大阪市立自然史博物館



図2：ナガスクジラ（中央）、マッコウクジラ（奥左）、ザトウクジラ（奥右）

巻頭口絵では、
常設展示を写真で紹介します。
詳しくは「口絵解説」
(後述)をお読み下さい。

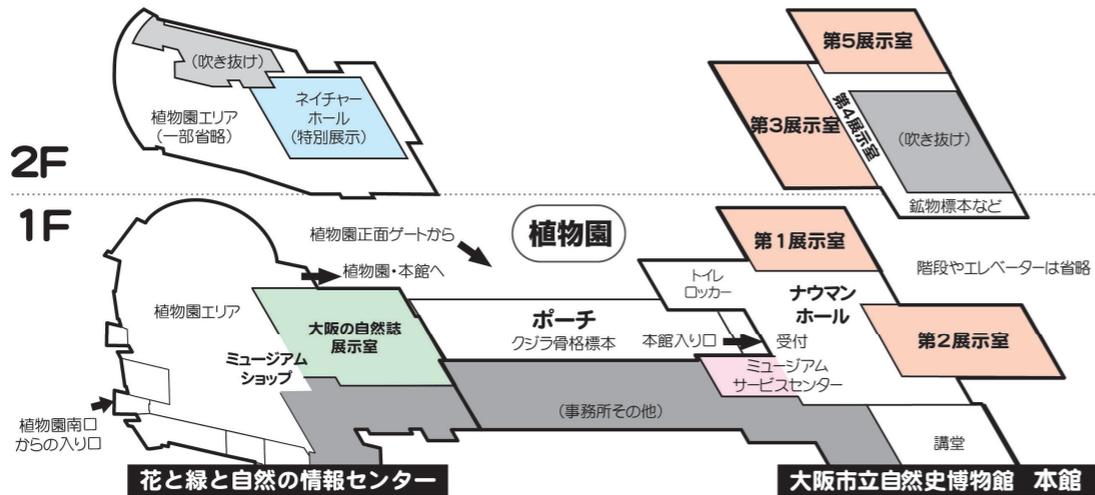


図3：大阪市立自然史博物館案内図 常設展示は「花と緑と自然の情報センター」（1階）と本館の2つの建物に分かれています

■本館 ナウマンホール



図4：ナウマンゾウ（右）とヤベオオツノジカ（左）
模型の足下の凹凸は足跡化石を型取りしたもの

■第1展示室「身近な自然」



図5：家の中にも生き物がいる

大阪のような大都市には
自然なんてないのでは？
いえいえ、
そんなことはありません。



図6：街にもいろんな生き物がいる



図7：外来生物



図8：河口干潟

自然の歴史やしくみを知ろう！

大阪市立自然史博物館

■第2展示室「地球と生命の歴史」

現在に近い時代から大昔へと、
時代をさかのぼってみよう。



図9：中央展示台 化石で見つかった大きな動物の骨格模型が並ぶ



図10：手作りの氷河地形模型



図11：大昔の大阪にはワニがいた



図12：和泉層群のアンモナイト化石



図13：三葉虫などの古生代の化石

■第3展示室「地球と生命の歴史」

生き物たちは、長い時間をかけ、様々な環境に合わせて進化した。



図14：植物も動く—種子散布—



図15：水たまりに吸水しにくるチョウ



図16：海にすむ大きな生きもの ナガスクジラ骨格標本、タカアシガニ、
リュウグウノツカイ、オオシャコガイなどが展示されている

■第4展示室「自然のめぐみ」

私たちが食べている
野菜、果物、穀物は、
どこからきたのだろう？



図17：キャベツのふるさとはどこ？

■第5展示室「生き物の暮らし」

生き物の暮らしを、標本、模型、ゲームで知ろう。

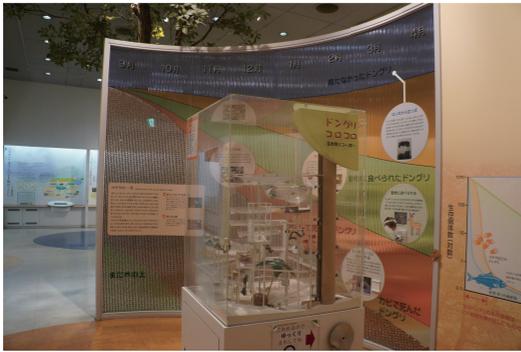


図18：ドングリコロコロ



図19：タヌキの目線でその生態を知る

■花と緑と自然の情報センター1階
ネイチャースクエア「大阪の自然誌」

大阪のどこでどんな
自然が見られる？



図20：台場くぬぎの森 台場くぬぎの幹が太くてゴツゴツしているのはなぜだろう



図21：金剛・生駒山地の自然



図22：自然の情報コーナー
図鑑等の図書、検索端末がある

■ミュージアムショップ

館出版物だけでなく、自然観察や標本づくりで使う道具、Tシャツなどのオリジナルグッズ、自然科学の本などがある。

友の会入会もミュージアムショップでできる。



図23：ミュージアムショップ

■展示だけが博物館ではありません！

■調査研究・資料収集保管

■いろいろな活動をしています。

■普及行事



図24：収蔵庫 約200万点の標本を収蔵



図25：「はくぶつかん・たんけん隊」では
収蔵庫も見学



図26：野外観察会も多数実施

●大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23
電話：06-6697-6221 (代表) webサイト：<https://omnh.jp/>
交通：Osaka Metro 長居駅から約800m、JR阪和線長居駅から約1km
休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/28～1/4) ※webサイトで確認
開館時間：3～10月は9：30～17：00、11～2月は9：30～16：30 (入館は閉館30分前まで)
入館料：大人300円 高校生・大学生200円 中学生以下無料
障害者手帳をお持ちの方と介助の方1名は無料
大阪市内在住65歳以上の方は住所と年齢がわかる公的書類の提示で無料

自然の歴史やしくみを知ろう！

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館

みんなでいっしょに自然をまなぶ

学芸課 石井 陽子

大阪市立自然史博物館は、大阪市南部にある自然史系博物館です。1950年に大阪市立自然科学博物館として大阪市立美術館の一角で活動を開始しました。その後、西区の小学校の旧校舎を経て、1974年に長居公園に移転し大阪市立自然史博物館と名称を変え、半世紀にわたって調査研究、資料収集保管、展示、普及教育等の活動を展開してきました。今回は常設展示を中心にをご紹介します。口絵とあわせてお読み下さい。当館の常設展示は本館の5つの展示室、花と緑と自然の情報センター1階にある「大阪の自然誌」展示室からなります。常設展示とは別に、期間限定の特別展示も行っています。大規模な特別展示は花と緑と自然の情報センター2階「ネイチャーホール」、小規模なテーマ展示・ミニ展示は博物館本館が会場です。

●ポーチ

植物園の正面ゲートに入ってしばらく進むとガラス屋根のポーチから吊り下げられた3体のクジラの骨格標本が皆さんを出迎えます。いずれも大阪湾内で死亡し、自然史博物館によって骨格標本化されたものです。近年3D撮影を行い、そのデータを公開しています。(https://sketchfab.com/OMNH)

●ナウマンホール

本館に入ると、目の前にナウマンゾウとヤベオオツノジカの復元模型が現れます。ナウマンゾウやヤベオオツノジカは、約43万年前に日本列島にやってきて約2万年前に絶滅しました。これらの動物は旧石器人の狩猟の対象だった可能性があり、人と自然の関わりのごく初期の様子を象徴するものとして展示しています。復元模型の足下の凹凸は、博物館の南3kmにある山之内遺跡で見つかったナウマンゾウやヤベオオツノジカの足跡化石を型取りして復元したも

のです。

●第1展示室 身近な自然

大阪のような大都市には自然なんてないので？いえいえ、そんなことはありません。港、公園、家の中、郊外の農地のまわり、里山、照葉樹林、森林の種類ごとに変化する昆虫たち、河口干潟、大阪湾など、身近な環境の自然を紹介します。絶滅危惧種、外来生物、貝塚やどんぐり貯蔵穴など縄文時代の人間の自然利用の様子も展示もあります。

●第2展示室 地球と生命の歴史

多くの博物館では、地球や生命の歴史を扱う展示は、地球の誕生から現在に向けて展開されますが、当館では現在から地球の誕生に向けてさかのぼります。まずは「大阪平野のおいたち」ではじまり、現在と似た環境や生き物の化石が展示されていますが、時代をさかのぼるにつれ徐々に見慣れない生き物の化石に移り変わっていきます。中央展示台には大きな骨格模型が、壁際の展示ケースにはそれぞれの時代について詳しく紹介する展示があるので、その間を歩き来しながら見るとよいでしょう。古生代まで見て階段を上ったら、振り返ってみてください。地球と生命の歴史を俯瞰するかのような光景が広がります。展示室を出ると、隕石や鉱物標本の展示があります。

●第3展示室 生命の進化

地球の長い歴史のなかで、生き物は環境の変化に合わせて進化してきました。その結果、現在のように高山から深海まで、多様な生物が多様な環境に適応して生息するようになりました。住み場所を広げる生き物、生き物同士のつながり、様々な環境に生息する昆虫たち、命のふろさとたる海の生き物、背骨のある生き物の骨格

模型など、多様な生き物の姿を展示で見ることができます。

●第4展示室 自然のめぐみ

私たちが普段食べている野菜や果物、穀物の原産地を紹介しています。第4展示室は第3展示室の入口から出口にかけての廊下にあります。

●第5展示室 生き物のくらし

生き物は、様々な環境を利用し、生き物どうしのつながりの中で生きています。生き物の一生、生き物のつながり、すみ場所のつながり、人のくらしとの関わりについて、標本や模型、ゲームなどで紹介します。

●ミュージアムサービスセンター

博物館本館1階の受付カウンターの裏側にあります。学芸員が常駐し、質問や問い合わせに対応します。

●ネイチャースクエア

「大阪の自然誌」展示室

花と緑と自然の情報センター1階の無料ゾーンにあります。大阪のどこに行くとどんな自然が観察できるのか、紹介する展示室です。現地調査によって作成された「自然観察地図」と関連付けて、様々な標本を展示しています。また、図鑑や図書で、野外で観察したものを調べることができます。土・日・祝日はカウンターに学芸員がいて、質問や問い合わせに対応します。

●ミュージアムショップ

花と緑と自然の情報センター1階にあります。館出版物に加え、自然観察や標本作りの道具、自然科学に関する図書、オリジナルTシャツやフィールドノート、その他自然や生き物をモチーフにしたユニークなグッズを扱っています。

●その他の活動や取り組み

普及教育：年間100回以上の野外観察会、講演会、室内実習、子どもワークショップなどの普及行事を実施しています。館webサイトの「イベント」欄をご覧ください。

調査研究・資料収集保管：学芸員や外来研究員による調査研究活動が行われています。「研究報告」「自然史研究」「収蔵資料目録」などの刊行物は、館webサイトのリポジトリサービス(https://omnh.repo.nii.ac.jp/)から入手できます。また、学芸員による研究成果の論文等を本館ナウマンホールに掲示しています。長年の資料収集保管活動により、200万点もの資料を収蔵しています。収蔵庫の公開は行っていませんが、収蔵庫を含めたバックヤードにご案内する子ども向け行事「はくぶつかん・たんけん隊」(1月に実施、要申込)、友の会行事「博物館裏側まるごとツアー」(2月に実施、要申込)があります。

博学連携：安全に楽しく遠足や校外活動でご利用いただくために、下見をおすすめしています。下見でのご来館には随時対応しています。各種標本キットに加え、来館の事前学習に適した紙芝居などの貸し出しや、ワークシートや動画等のwebコンテンツも用意しています(詳細は館webサイト)。来館時に学芸員に質問をしていただくことや、先生と学芸員で作るリクエスト授業も可能です。また、夏休みに実施している「教員のための博物館の日」やその他各種教員研修、教員と博物館をつなぐTMネットワークもあります。

大阪市立自然史博物館友の会：博物館をもっと利用したい方のために「友の会」があります。ご入会いただくと学芸員や会員の記事、行事予定が掲載された月刊誌Nature Studyが届きます。会員を対象とした月例ハイキングやバックヤードツアーなどの行事もあります。会員証提示で入館無料になります。

認定NPO法人大阪自然史センター：博物館友の会を母体として発足し、自然史博物館と連携協定を結んでいます。友の会・ミュージアムショップ・子どもワークショップの運営、博物館行事の共催に加え、関西自然保護機構の事務局が置かれています。



大阪市立自然史博物館電子ブックトップQRコード